

「東部中学校区6小学校 再編活性化 意見聴取会」 議事録（要点筆記）  
（掃水小学校）

日時：令和6年6月6日（木）19:00～20:47

場所：掃水小学校 体育館

出席者：

【地域住民・保護者】21人

【学校関係者】12人

【教育委員会】事務局長 刀根和宜

事務局次長 金谷勝弘

教育総務課長 西浦有一

教育総務課 学校活性化推進室長 北畠和幸

教育総務課 学校活性化推進室主幹 清水尚美

教育総務課 学校活性化推進室主任 地主博一

学校マネジメントコーディネーター 田中伸之

【市議会】奥出かよ子 西口真理 山本芳敬（五十音順・敬称略）

**挨拶：局長**

本日は、お集まりいただきありがとうございます。

これまで、校区の保護者、学校運営協議会、地域の皆様と、「子どもの学ぶ環境」について議論をさせていただきました。そして、一定の方向性がまとまってきました。

本日は、その方向性をご説明させていただき、ご出席の皆様からご意見をいただきたいと思います。忌憚のないご意見をお願いいたします。

**教育委員会自己紹介**

**資料説明：事務局**

資料『松阪市立東部中学校区6小学校 再編活性化に関わる意見聴取会』

（4ページ）

・全国的に児童生徒数が減少していることから、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」（文部科学省）が策定された。

・松阪市教育委員会では、令和2年度に検討委員会を立ち上げ、外部の委員による検討を重ね、令和5年3月に「松阪市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を策定した。

（2・3ページ）

・松阪市では、4人グループ5つで議論を深められるなどの理由から、「最低限確保したい学校規模」を1学級20人程度とした。

・東部中学校区6小学校のうち5校が対象校であることから、東部中学校区全体で再編活性化の検討を

開始した。掃水小学校は対象校ではないが、学校規模としては「小規模校」に分類される。

(4ページ)

- ・令和5年度は、各小学校区において、学校との関わりが深い方々から意見交換を開始した。
- ・住民自治協議会からの提案を受け、「東部中学校区学校活性化協議会」を設置し、各小学校区から保護者代表・住民代表・学校運営協議会代表・学校代表が集まって議論を重ねた。
- ・第3回東部中学校区学校活性化協議会において、再編活性化の方向性が確認された。

(5・6ページ)

- ・「6小学校を1校に統合する」という意見もあったが、最終的に「複式学級を早期に解消する」ことを最優先に、「6小学校を2校に統合する」方向で、学校活性化協議会で案を取りまとめていただいた。
- ・学校活性化協議会内に設置する準備部会は、地域・学校運営協議会・保護者・学校の代表者で委員を構成する。検討内容としては、校名・校歌・カリキュラム・学校運営協議会組織・学校予算・学校備品・通学路・スクールバス・学童・PTA組織などがある。
- ・『学校活性化協議会だより』で節目節目に、ホームページで随時周知を図る。
- ・配慮すべき主な事項⑤「新入学児童に対する配慮」については、統合が具体的になるにつれ、要望する声をいただくようになった。今後、準備部会で協議いただきたい。

(9ページ)

- ・「地域総ぐるみでの教育」として、コミュニティ・スクール、探究的な学習、小中連携教育を3本柱として取り組む。
- ・コミュニティ・スクールについては、中学校区で連携・協働できる組織を構築する。今後は、クラブ活動の地域移行やPTA組織についてなども、学校運営協議会で検討をしていくことが考えられる。
- ・校区が広がることを利用して、現在取り組んでいる「探究的な学習」をさらに充実させていく。それにより、子どもたちと地域の方々が繋がる機会にもなる。また、子どもたちの地域に対する誇りや愛着心の育成にもつながる。
- ・コミュニティ・スクールや探究的な学習を支えるために、「小中連携教育」を推進する。また、就学前教育との連携も図る。

1年をかけて、保護者、地域住民、学校運営協議会委員、学校活性化協議会委員の方々との議論を進めてまいりました。本日は、「子どもたちのより良い教育環境の実現」の観点から、皆様のご意見をお聴かせください。

## 質疑応答

参加者

「小中連携教育」の条件があれば教えてほしい。

これまでの意見聴取会で出された意見を教えてほしい。また、意見聴取会の議事録はホームページに掲載するのか。

事務局

統合による環境変化などがあることから、まずは統合校で「小中連携教育」を進めることで、基盤を

しっかりつくっていきたいと思います。その先に、「小中一貫教育」が見えてくるものと考えています。

これまでの意見聴取会では、統合の是非を問うご意見はほとんど無く、統合後の子どもたちの教育環境を心配するご意見が多くありました。

- ・通学路を見直す必要がある。通学距離が長くなることからスクールバスを導入する必要がある。
- ・学校跡地の活用をどうしていくのか。  
→活用方法については、地域の皆様からどんどん案を出していただきたいと思います。
- ・体操服等の学用品は、統合したら買い直すのか。  
→準備部会で検討していくこととなりますが、全てを買い替える必要がないように配慮していきたいと思います。
- ・運動会や文化祭などの行事について、地域と学校とのつながりが切れないような方策を考えていく必要がある。
- ・(漕代地区での意見聴取会において) 櫛田地区の皆さんと協議をしていかないといけない。

準備部会で決まってきたことは、『学校活性化協議会だより』を各戸配布して、周知を図っていきます。

意見聴取会の議事録を作成しています。今後、市のホームページに掲載していく予定です。

#### 参加者

漕代小学校は無くなるが、どのように残していくのか。子どもがいた景色を残せないか。例えば、『マイクラ』というゲームで、子どもたちに作ってもらうこともできるのではないか。

この地域に引っ越してきた。理由は、掃水小学校ではサッカーや野球が強く、勉強もよくできた。大きい校庭で思い切り運動してほしいと思った。

2小に統合する案は良いと思うが、その先にある小中一貫教育のステップに入ってほしい。小中一貫教育へ移行していくための組織を今からつくってほしい。

第2回学校活性化協議会の要点筆記(7ページ)に、「松阪市総合運動公園の辺りに校舎を建てる。」という意見が出ていた。とても良い案だと思う。中学校にスケボー部があっても面白いと思う。

令和8年4月まで1年半しかない。今頃説明会をしているようでは遅い。まだ統合することも決定していない。令和8年度の開校までに、準備部会でまとめていかないといけない。来年度PTA役員だが、ちょっとでも負担を減らしてほしいと思う。

第3回学校活性化協議会の要点筆記(5ページ)に、教育長から「進捗状況をチェックする機能をコミュニティ・スクールが担う。」という発言があった。令和7年度には、中学校区学校運営協議会を整えて、PDCAサイクルを回せるようにしてほしい。

#### 次長

東部中学校区の各学校には歴史が詰まっています。掃水小学校が150年、漕代小学校が140年を迎え、いずれも伝統のある学校です。そんな2校が統合するので、それぞれの小学校の良さを着実に捉えて、まずは「小中連携教育」を着実に進めていきます。その先に、9年間のカリキュラムを編成した「小中一貫教育」があると思います。

松阪市では、全ての小中学校がコミュニティ・スクールになりました。このコミュニティ・スクール

を基盤にしていくことはとても大切です。先程、スケボー部の話もありましたが、クラブ活動の地域連携という視点でも、コミュニティ・スクールを生かしていきたいと思います。

#### 事務局

「複式学級をなるべく早く解消する。」ということから、令和8年4月の開校をめざしています。昨年度の1年間は皆さんからご意見をいただくために時間をかけてきましたが、準備部会では教育委員会からたくさんの情報提供をしながらスピード感をもって進めていきます。なるべくPTA役員さんのご負担にならないように進めていきたいと思いますので、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 参加者

統合は大人の考え。学校は子どもが中心であり、子どもにも権利がある。2校の子どもたちが仲良く学校生活を送れるように、例えば一緒に授業を受ける、運動会をする、遠足に行くなどの交流があれば良いと思う。

#### 次長

子どもたちが当事者なので、環境変化への対応は大切だと考えています。

今年度も、探究的な学習や人権フォーラムなど、各学年で交流を進めてもらっています。子どもたちがスムーズに令和8年度を迎えられるように整えていきたいと思います。

#### 事務局

学校だけでなく、住民自治協議会主催のイベントなどにおいても、子どもたちの交流ができると思います。

松ヶ崎小学校と米ノ庄小学校においても、米ノ庄コミュニティセンター主催のイベントに松ヶ崎小学校の子どもたちが参加するなど、交流が始まっています。

#### 参加者

昨年度、漕代小学校と機殿小学校の複式学級を見学した。教室の前後の黒板を使って、授業が行われていた。複式学級の授業では、児童の資質が問われると感じた。児童の一人が先生の代わりのようなことをするので、もし落ち着かない子どもがいたら破綻するのではないかと思った。だからこそ、早く統合する必要があるように思う。

一方、漕代小学校の子どもたちの書道の作品はとても上手だった。芸術の面では、少人数教育の良さもあると思う。統合後も、少人数の良さを活かした教育を進めてほしい。

少数派である漕代小学校の子どもたちがよそ者みたいにならないか心配。大人がそういう意識でいると、それが子どもに移るかもしれない。そのことによって、いじめなどが起きたら大変なこと。受け入れる掃水側の姿勢が大切。

#### 次長

教室の前後に分かれて授業をすることを「渡り」と言います。先生にとっては準備などの負担が大きくなります。

また、小規模校では研修などの出張に行けないというデメリットもあります。

統合して人数が増えても、少人数に分かれて学習することもできますので、その良さを生かしていきたいと思います。

#### 参加者

漕代小学校との交流では、どのようなことをしているのか。

#### 学校長（掃水小学校）

東部中学校区では、市の「探究的な学習」の事業指定を受けています。

昨年度は、両校の2年生が同じ課題で学習し、掃水小学校の子どもたちが漕代小学校に行き、お互いに調べたことを発表しました。学習発表会では、保護者や地域の方にも聞いていただきました。

3年生では、掃水小学校の子どもたちが、住民自治協議会の方々や見守りボランティアの方々の思いを聞くなどの学習に取り組みました。漕代小学校の子どもたちは土地に関する制度などについて調べる学習に取り組みました。そして、それぞれが学習したことを発表しました。

各学年でお互いに行き来しながら交流をしています。今年はさらにバージョンアップをめざしていきます。

#### 園長（掃水幼稚園）

東部中学校区内で唯一の幼稚園。仲間と過ごす中で、子どもたちは日々成長しています。仲間と過ごすことは大事だと感じています。

昨年度は保護者からの心配の声をよく聞きました。見通しが見えてきたことで少し安心されているのではないのでしょうか。

掃水幼稚園には年長の子どもが13人います。その内の11人は、東部中学校区内の小学校に入学予定だと思います。「新入学児童に対する配慮」（資料6ページ）とありますが、例えば、漕代小学校に行くはずの子どもが掃水小学校に行くことは可能になるということですか。

また、このことを保護者に伝えてもよいのでしょうか。

このことが決まったら、該当する保護者に通知していただきたいです。来年度のことなので、早急に対応してもらう必要があると思います。

#### 事務局

この件については、（教育委員会事務局に）電話をいただいたり、直接ご相談に来ていただいたりしています。最優先して調整すべき事項のひとつであることから、速やかに決めていただいて、速やかに周知していきたいと思います。

令和7年度については、お住まいの校区の学校に入学することが原則であることに変わりはありません。ただ、一定程度お声があることから、「入学する学校を選択できるようにできないか。」ということです。

当然、メリット・デメリットも考えていかないといけません。例えば、令和8年度以降はスクールバスを出すことが可能ですが、令和7年度については保護者の方の送り迎えが必要になります。

保護者の方々でご相談していただく時間も必要だと思いますので、早急に検討を開始していきます。

本日の内容は、保護者に伝えていただいても大丈夫です。

## 参加者

コロナ前は住民自治協議会と学校が連携して、一緒にイベントなどをしていた。教職員の「働き方改革」などもあり、文化祭や体育祭も一緒にやりにくくなっていると感じている。統合すると、ますます連携が難しくなるのではないかと危惧している。

漕代小学校からの通学路は、十分な検討が必要になる。掃水小学校区内でも、危ない通学路がある。標識や通学路表示が無かったりするので、担当課と連携して安全対策を講じてもらえるといい。

『学校活性化協議会だより』を各戸配布してもらえるのは良いことだと思う。これまでは周知が少なく、地域にきちんと伝わっていないと思う。もう少し情報開示してほしい。

## 次長

教職員の「働き方改革」は、喫緊の課題です。ただ、地域との行事を何でもかんでも無くしていくのではなく、子どもたちの教育に何が必要なのかを考えた上で、行事に参加していくことも大切だと思います。

コロナ禍が明けて、様々なことが変わりつつあります。教育委員会としても、しっかり考えていきたいと思っています。

## 事務局

通学路については、保護者や地域の皆様のご協力のもと、可能な限り安全な道を選んでいただいていると思います。また、見守りボランティアの方々にもご協力いただいているお陰で、安全に登校することができていると思います。標識等については、今後も引き続き所管する部署に要望を出していきます。

『学校活性化協議会だより』の発行はこれからになります。これまでは『学校だより』や『公民館だより』などで周知をしてきました。ただ、もう少し工夫ができれば良かったと感じています。今後も、周知に努めてまいります。

## 参加者

先程「小中一貫」という話があったが、それは「一貫校」をつくるということなのか。それとも、教育上での「小中一貫」ということなのか。

保護者の方々が、スクールバスの集合場所や集合時刻を気にしてみえる。もう少し明確にしていきたい。

ホームページでの周知は、意識していないと見ないので、書面で周知するなどの工夫が必要。

## 次長

現時点では、「小中連携教育」を進めていくことを考えています。

## 参加者

10年後に改修工事をすると聞いている。その時には、「小中一貫校」をつくるのか。

私自身は、他県から引っ越してきた。以前住んでいた地域では、統合のタイミングでひとつの学校にした。その方が、予算がかからないのではないかととも思う。

## 次長

学校活性化協議会でも、「1小1中」というご意見がありました。ただ、「複式学級を早期に解消していく。」ということになり、教育委員会としては、まずは2小1中で「小中連携教育」を進めていくこととしました。

「小中連携教育」にまずしっかり取り組んだ上で、「小中一貫教育」を考えていきたいと思います。

## 事務局

スクールバスについては、「必要なかどうか。」というところから、準備部会で協議していただきます。

漕代には7町ありますが、1町ずつスクールバスで回ると、最初に乗った子どもが長時間乗車することになります。また、先行事例では、ドアツードアになると、児童の肥満や体力不足などの課題も報告されています。子どもたちがある程度歩くことができるような停留所の設置方法も考えられます。

『学校活性化協議会だより』を各戸配布して、節目節目の周知を図っていきます。ホームページでは、さらにタイムリーに周知していきます。

## 参加者

漕代小学校の子どもたちが不安になるのではないかと思っていたが、本日の意見聴取会に参加して、そうではないと感じた。掃水小学校の校章も校歌も変わっていく。

教育委員会が、他の課としっかり連携を取って進めていただきたい。

例えば、図書室の本ひとつとっても、たくさんの作業が必要になる。先生方も大変なので、地域が協力できるところは協力していきたい。

掃水で作っている紙芝居の漕代バージョンを作っている。まちづくり協議会も連携を取って、子どもたちのために色々やっていかないといけないと思う。

## 次長

統合に向けて、仕事が増えていくことは確かですので、地域の皆さんにもご協力いただければと思っています。

学校は、公民館や住民自治協議会にご協力いただいて、様々なことに取り組んでいます。これからも連携を大切にしていきたいと思います。

保育園や幼稚園を担当していることも未来課との連携も取っていきます。

## 事務局

日頃から、公民館や住民自治協議会同士で連携を取っていただいていることに感謝しています。

本日の内容は、議事録としてホームページにも掲載しますが、生の声を地域の皆さんにお伝えしていただくと有り難いです。今回ご意見がいただけなかった方については、学校や教育委員会など、言いやすいところ伝えていただけたらと思います。

## 挨拶：局長

貴重なご意見たくさんいただき、ありがとうございました。今後の準備部会等での協議にしっかり繋がってきたいと思います。